



医療法人社団 CHCPヘルスケアシステム
洞爺温泉病院・介護医療院なのはな

第88号 広報誌

令和8年
1月30日
発行

とーや湖 さざなみ 通信 | TOYAKO SAZANAMI NEWS Vol. 88

P.1 来年度に向けてご挨拶

事務部〔部長〕種谷 浩昭
看護部〔部長〕橋本 憲之
診療技術部〔部長〕水谷 一寿

P.2 〈「第11回 洞爺温泉病院栄養支援セミナー」—— 看護部〔主任〕神島 ひろみ
「第22回 北海道胃腸研究会」に参加して—— 介護医療院なのはな〔施設長〕渡久山 晃

P.3 〈2025年度 新入職の特定技能外国人材・技能実習生の紹介
イベント・行事のご案内

P.4 「北の随草録〈10〉」—— 薬剤課〔薬剤師〕安藤 祐子

P.5 〈無料循環バス「つばさ号」運行終了のご案内—— 総務課〔課長〕上野 修司
編集後記



来年度に向けてご挨拶

事務部[部長] 種谷 浩昭

令和7年4月より事務部長に就任いたしました。医療業界を取り巻く経営環境は依然として厳しい状況が続いております。そのような状況の中でも、地域の皆さまにとって「なくてはならない病院」であり続けられるよう、職員の皆さんと力を合わせ、現場の声を大切にしながら、持続可能な病院経営に取り組んでまいります。まだまだ力不足を感じる場面も多くありますが、日々研鑽を重ね、少しでも組織に貢献できるよう努めてまいりますので、今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

看護部[部長] 橋本 憲之

今年度は私自身にとって、色々な変化に対応していかなければいけない年で、心身共に限界を感じながら、業務についても業務がどんどん増えていく中、色々な所を見落としていた事、中途半端な事が多くあったと思い、とても反省する事が多くあった年でした。私にとって今年1年を漢字で表すと“苦”“和”という漢字が頭に浮かびました。厳しい時こそチームが同じ方向に向いて、協力し合った結果、今年を無事終える事が出来ました。それはスタッフ一人一人の協力があった事が大きいと思い、心から感謝しています。

来年度の目標は”安“が頭の中に浮かぶ年にしたいと思います。私自身の安定もはかりながら、色々と迷惑をかけたベットのコントロールなどの負担軽減を行い業務の安定を行いながら、職員・患者さんが安心して過ごせる環境の提供の“安”を課題として取り組んでいきたいと思います。

診療技術部[部長] 水谷 一寿

診療技術部は、7職種5部門から構成されています。各部門のスタッフや医療機器を充実させ、患者・入所者へのサービス向上に努める年度になります。

●薬剤課は、各病棟・介護医療院に担当薬剤師を配置し、服薬指導や服薬支援、薬剤の投与量、禁忌等に関する確認や効果、副作用等に関する状況把握を行い安全な薬物療法を支援することとポリファーマシーの改善に寄与します。

●リハビリテーション課は、入院患者・入所者へリハビリテーション実施数を向上させ、身体機能の機能改善や維持に努めます。

●臨床検査課は、動脈硬化の程度を測定する検査機器を導入し、検査の幅が広がることで、より多くの診療に貢献します。

●放射線課は、昨年X線TVが更新され、画質が良く被ばくが少ない機種となりました。来年度は、より多くの診療に貢献します。

●栄養課は、介護医療院なのはなに専属の管理栄養士を配置し、利用者の栄養状態や食事の摂取状況をしっかりと確認し、栄養維持や改善に努めます。

専門職の機能を十分に発揮させるのが診療技術部長としての使命と思い取り組んで参ります。

看護部[主任] 神島 ひろみ

令和7年10月3日に「第11回洞爺温泉病院栄養管理セミナー」を開催しました。「言語聴覚士がいない施設でもできる食支援」と題し外部講師をお招きしてご講演いただきました。

最初に一般演題として私より「とろみの統一化に向けた当院での取り組み」についてお話させていただきました。嚥下機能が低下した患者さんにはとろみ剤の使用が必要になります。必要性の理解はあってもどのくらいの粘度が必要なのか統一されていませんでした。今回とろみ表を作成し誰が作っても同じ粘度でとろみ水が提供できるようになった取り組みをお話しました。

次に特別講演として札幌麻生脳神経外科病院言語聴覚士の源間隆雄先生より「多職種で進めよう 食支援の実際」―安全を意識して進めるコツ―と題しご講演いただきました。日頃食事介助をしている看護師や介護職を感じる違和感が重要であり、多職種で共有することが誤嚥予防に繋がること、また完全側臥位法について実演を交えて説明いただきました。今回の学びを日常業務に活かしていきたいと思います。

「第11回洞爺温泉病院栄養支援セミナー」



介護医療院なのはな[施設長] 渡久山 晃

「第22回北海道胃瘻研究会」に参加して

令和7年11月15日に開催された第22回北海道胃瘻研究会に参加いたしました。本研究会では医師のみならず看護師・管理栄養士・言語聴覚士など多職種の方々から多数の演題発表がありました。各施設における栄養管理への関心の高さが強く伺えると同時に、さまざまな職種・立場からの視点で活発な議論がなされ大変有意義で学びの多い時間となりました。

また私自身も緩和ケア領域における胃瘻管理について演題の一つ発表し、会場の皆さまと活発な意見交換を行うことができ大きな刺激を受けました。慢性期医療を担う施設として本研究会で得た知見を今後も日々の診療・栄養管理に活かし、より質の高い医療の提供に努めてまいります。

2025年度 新入職の特定技能外国人材・ 技能実習生の紹介

①出身国 ②好きな日本食 ③日本でやりたい事



東3階病棟
ブンガ チトラ レスタリ

- ①インドネシア
- ②カレーライス・もち
- ③スキー



東3階病棟
ラストリ ダマニク

- ①インドネシア
- ②丼もの
- ③スキー



なのはな2階
ラカンドゥラ アライサ コロネル

- ①フィリピン
- ②塩ラーメン
- ③旅行(東京ディズニーランド)



なのはな2階
サンゲリッド マニリー スミン

- ①フィリピン
- ②お寿司
- ③スキー



なのはな2階
インジン ウー

- ①ミャンマー
- ②焼肉
- ③旅行(沖縄)



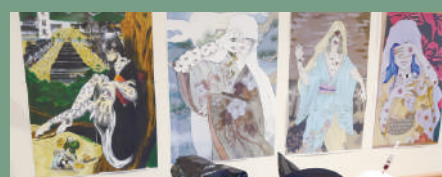
なのはな3階
カイン ヤモン テッ

- ①ミャンマー
- ②日本のお菓子、アイスクリーム
- ③旅行(函館五稜郭)



2025.10.30
なのはな2F
ハローウィン

ナースステーション前に「お化け屋敷」が登場。ハローウィン気分が盛り上がりました。



2025.12.1～
作品展

通所リハビリご利用者さん、患者さん、職員による力作ぞろいの「作品展」です。



2025.12.24
なのはな3F クリスマス会

なのはな3Fでクリスマス会が行われました。職員によるハンドベル演奏に加えて、患者さんもトーンチャイムで参加です。



2025.12.24
緩和ケア病棟 クリスマス会

ホスピス・緩和ケア病棟では12月24日にクリスマス会を行いました。患者さんにはケーキなどの軽食とともに職員によるクリスマスソングや楽器の演奏を楽しんでいただきました。





「北の随草録〈10〉」

薬剤課[薬剤師] 安藤 祐子

病棟の裏庭には、大きなアカエゾマツが雪のドレスを纏って静かに佇んでいます。

アカエゾマツは、真冬も緑の葉を保つマツ科の針葉樹で、トウヒ属に分類され、(クロ)エゾマツと共に北海道の風土を象徴する。北海道の木に選定されています。その枝葉や松毬は、重みに委ねて垂れ下がっていき、自然と樹形が裾広がりの円錐形となります。大木に成長すると、枝葉が根元をとり囲み、風雪からひととき避難することのできる空間を貸し与えます。

枝葉から揮発する精油は、他の針葉樹のものに比べ、香りが甘くまろやかな印象があります。成分としては特にボルニルアセテートを多く含んでおり、森の香りで周囲を満たし、神経をリラックスさせ、ストレスを和らげるなどの効用をもたらします。アイヌの伝説では、「エゾマツの女神」に命を助けられたという話が語り継がれており、その樹脂は女神のくれた傷薬といわれますが、西洋の森の民の間でも、トウヒ属の樹木

は物を庇護する女性的な要素を持つとされています。

また、トウヒ属は、長い年月をかけてゆっくり成長することによって緻密で均質な材となり、優れた音響特性が育まれます。ピアノやヴァイオリンなどの響板材に用いられ、弦の振動を増幅させ、美しく豊かな音を生み出すための心臓部を担います。樹齢百年以上のアカエゾマツは、国産の楽器材として高く評価されており、某大手楽器メーカーも育成に投資を行っています。

ゆったりと包み込むように枝葉を広げ、冬の空白を満たすアカエゾマツの響きに耳を澄ませば、胸の奥に温かな波紋がふれるように感じられます。



無料循環バス「つばさ号」運行終了のご案内

総務課〔課長〕 上野 修司

平素より当院の活動を温かく支えていただき、心より感謝申し上げます。

このたび、長年多くの皆様に親しまれてまいりました無料循環バス「つばさ号」は、2026年3月末をもちまして運行を終了させていただくことになりました。

これまで製鉄記念室蘭病院と当院で「つばさ号」の運行維持に努めてまいりましたが、深刻な運転手不足や車両の老朽化、燃料費の高騰といった厳しい状況が重なり、現在の形で運行を続けることがどうしても困難となりました。

日頃よりご利用いただいている皆様、ならびにご支援くださっている関係機関の皆様には、多大なるご不便をおかけすることを深くお詫び申し上げます。

今後は、現在の運行を終了する代わりに、規模を縮小した新しい形での送迎を検討しております。具体的には、東室蘭駅西口から当院までを直接結ぶ「入院患者様のお見舞い専用バス」を計画中です。予約制の便とはなりますが、ご家族との面会を支える手段として準備を進めております。

詳細が決まりましたら改めてお知らせいたします。これまでのご愛顧に感謝いたしますとともに、何卒ご理解を賜りますようお願い申し上げます。



【洞爺温泉病院 理念】

- 個別性を尊重した医療の提供
- 信頼されるチーム医療の実践

【介護医療院なのはな 理念】

- 利用者の個別性を尊重した、快適な生活施設
- 信頼されるチーム医療・介護の実践
- 尊厳ある看取りが行われる

<編集後記>

年々、1年が速く感じられるようになってきました。先日仕事で遅めに帰宅すると、中学生の娘が米を炊き洗濯物を畳み布団を敷いて、と沢山のお手伝いをしてくれていました。まだまだ何も出来ない子供だと思っていた娘の成長と優しさに驚き、自分にはあっという間の1年が、子供には大きく成長する濃密な1年なのだと考えられました。大人の私も濃い1年を過したと胸を張れるように、日々の生活を工夫していこうと思います。(A.A)

企画・編集／医療法人社団 CHCPヘルスケアシステム 洞爺温泉病院 広報図書委員会
〒049-5892 虻田郡洞爺湖町洞爺町54-41
【TEL】0142-87-2311 【FAX】0142-87-2260
【ホームページ】<https://www.toya-onsen-hospital.or.jp>



洞爺温泉病院HP